

新潟県

公民館月報 1

平成10年1月号 通巻第539号



表紙 雪の華
(妙高村公民館)

若手寄稿 行政が主催する家庭教育学級の
のあり方～幼児期～

祝 一点 自然は広い

ひろば 大学教授奮闘の記

サークル交流 レク「しん」(新潟市)

フラミンゴ(三島町)

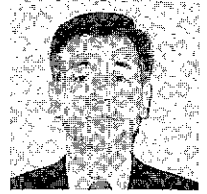
素顔拝見 八木清宣様(見附市北谷公民館)

小泉由岐子様(紫雲寺町中央公民館)

新たな年を迎えて・年頭の所感



揮毫 今井会長



くらは低く、思いは高く

会長 今井昭友

謹賀新年
毎年のことながら、今年こそは良い年にと願うのは私一人ではあるまい。

昨年は、神戸の児童殺害事件、金融・保険業の破綻、自治体の不正支出等と日本病はとどまることを知らない。ところで、第九回全国生涯学習フェスティバルお疲れ様でした。昨秋十月、この関連事業の一つに新潟国際情報大学主催のシンポジウム「政治は甦るか」で、「火だるま」が流行語となった行革をシンポジストが話す。今の

政治は終りなのか始まりなのか、今後何を期待すればよいのか」と、奇しくもオーパレーションしてならない。今の政官財の政治状況を、大人は子ども達にどう話すのだろう。

さて、「暮らしは……」というところ、どこかで耳目にしませんでしたか、昨秋、全国公民館大会で森隆夫お茶の水女子大教授が講演されたタイトルで、その中で、文明社会の欠落を警鐘した点では当県の三百ある公民館の実態に近いものを感じた。

時折しも、県社会教育委員会議では公民館の活性化策が論議されている。そこで一番の指摘は人不足。本館の館長の78%は非常勤、館長を除く職員数は専任・兼任・非常勤を含め一館当たり7人(日9、5現在)。そして、時代遅れの施設と事業予算がないことである。これに呼応すべく、県社団懇(社会教育協会等の14団体で構成)は昨年十月に県知事、教育長に要望書を提出した。因に県公連の県補助金蔵入割合は当県が14%、隣の

富山県は51%、石川県が42%である。当会顧問の上村先生が提唱する「リストラへの挑戦」を考えたい……。正に公民館は人も金もない。武士は食わねど高楊枝でないが、ハングリー精神で乗り切らざるを得ない現状である。それなら、残すは知恵しかない。

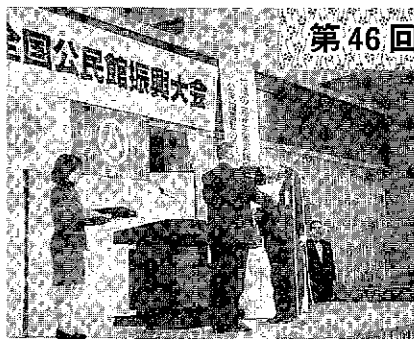
公民館は昨夏の地方分権委勧告以来、社会教育法の「縛り」から「自由」になれる「規制緩和」という美名のもとに揺さぶりをかけられている。今年は正念場を迎えそうだし……。

教育改革が叫ばれて久しくなるが、私は、長岡の「米百俵の精神」と人材活用に注目したい。また、阪神大震災以来、重油流出事故でもボランティア活動や連帯感が醸成されたともきく。

それにもまして、昨秋のまなびピアで鬼嶋紫雲寺町長の、「これからは公民館の時代ですよ」の言葉が耳から離れない。

そして、森先生の信条を噛み締めて暮らしたい。

第46回全国公民館振興大会開催



大会宣言決議採択

優良職員表彰受章者代表に

本県五十嵐勲様(柏崎市)

去る12月4日、東京赤坂プリンスホテルを会場に開催された。

恒例の大会宣言決議では、①公民館活動のより一層の活性化を図る地域社会教育活動に対する国・県・市の支援を要望、②公民館職員の充実及び

専門性を始めとする、公民館振興のための諸制度の整備、③公民館充実のために地方交付税へ、公民館費の精算額の増額を要望、の3点を提案、全会一致で採択された。

なお、表彰式では、

- ◆優良職員表彰受賞者
 - ・五十嵐 勲様
 - ◆(柏崎市) 柏崎公民館前館長
 - ◆永年勤続職員表彰受賞者
 - ・吉井 英一様
 - (新潟市中地区公民館長)
 - ・江口 由美子様
 - (柏崎市田尻公民館職員)
 - ・金子 幸一様
 - (柏崎市南鯖石公民館前館長)
 - ・吉田 三郎様 (村上市山辺里地区公民館前館長)
 - ・藤井 史男様
 - (羽茂町公民館補佐)

の方々を受賞された。

公民館振興市町村長連盟

理事・代議員会開催さる

全国公民館振興大会終了後、午後4時より同ホテル内で会場を移し、公民館振興市町村長連盟の理事代議員会が開催された。

議事は、平成8年度事業報告及び収支決算報告、平成10年度

事業計画及び収支予算案についてで、原案どおり可決決定された。

その他の議案では、役員の変更と連盟の今後について、原案どおり可決決定された。

十日町市公民館設置50周年記念式典

◇於、十日町市市民会館



公民館成人講座 コーラス愛好会の皆さん

歴史と伝統と実績を誇る十日町市公民館の設置50周年式典が、昨年11月29日(土)多数の関係者が列席の下、盛會裏に開催された。

オープニングは、公民館講師の当重西様の独唱に始まり、文化の香り高い開会行事となった。

記念実行委員会会長の生越誠一教育長様の開会あいさつ、過去公民館の振興発展に寄与された方々への感謝状贈呈、そして、十日町市長本田欣二郎様はじめご来賓の方々のご祝辞がなされた。

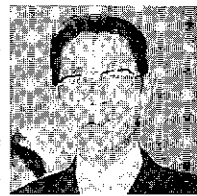
町づくり、人づくり運動のセクターにする、という初代山内館長のモットーの下、数々の実践、業績を高く評価されての三度の文部大臣表彰等、50年の歩みのスライド上映は、関係者一同感慨深いものとなった。

また、公民館成人講座から生まれたコーラス愛好会の合唱も錦上添花を添えるもので、感動的に聴取しながら閉会を迎えた。

その後の祝賀会は、会場を移して行われ、懐かしい方々と旧交を温めながら互いに祝い合うことができた。

大学教授奮闘の記

吉川町公民館長 八木一也



私の町に住職で東京の大学で教授の肩書きの先生がおられます。

に理解され心に残る定評は抜群の一語です。

先般、中頸公民館連合会が実施した公運審委員研修会が当町で実施されました。地元の利を生かし講師を依頼したところ即座に快諾し、当日の運営の成功を見た次第です。心のケアと家族の支え」の演題で、百余名の聴衆は九十分の講演を熱心に聴講したのでした。長岡西病院での患者との触れあい体験からの話材で、末期患者の心理という論旨は聴衆に深い感銘を与えた確かな事実でした。

学位をお持ちの素晴らしい方です。永年住み馴れた関東の地を引き払われ、正式に町の住民となられ専ら寺院という毎日です。

今は月何回かの大学の講義と、長岡西病院で週二回のターミルケアをされています。専門分野から誠に得難い教授にすっかり惚れて、各種の講師の申込みが殺到という有様です。極めて庶民的で親しみ深い人柄は、地域の深い尊敬の的でもあります。寺役の面を言うなら、檀家の老夫婦等は衣姿の教授を鶴首する素晴らしいお坊さんでもあります。

視 点

最近、公民館講座の中に自然環境をテーマにした講座が盛んになつて来ている。新潟市の東地区公民館は通船川の保全再生をテーマに、公民館を飛び出し理論講座から、より実践と体験を重視した

最近、公民館講座の中に自然環境をテーマにした講座が盛んになつて来ている。新潟市の東地区公民館は通船川の保全再生をテーマに、公民館を飛び出し理論講座から、より実践と体験を重視した

自然は広い

清水重蔵

自然という、どうして鳥や植物といった自然科学系を中心と考えてしまいがちで環境破壊に対する住民運動であるとも言える。

文化の廃れが自然破壊につながるとも言えるが、してみると従来公民館の書や絵の講義は自然保護の講座で、二十世紀に残留した日本の自然百選地「福島瀧」の自然に学びながら考えている。(ビュー福島瀧館長、豊栄市文化振興室長、豊栄市博物館長)

次代へよりよく手渡していくのが現在を生きている私たちの役割である。二十世紀に残留した日本の自然百選地「福島瀧」の自然に学びながら考えている。



動イコール自然保護運動ととらえられて来たが、日本には、日本画や俳句や短歌に茶道や華道に、自然を詠い、描き、わびさびの精神世界にまで高めながら

動イコール自然保護運動ととらえられて来たが、日本には、日本画や俳句や短歌に茶道や華道に、自然を詠い、描き、わびさびの精神世界にまで高めながら

ひ る ば

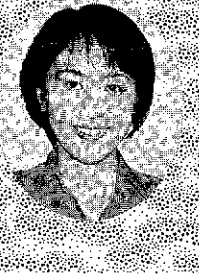
昭和五十年より二十年近くも婦人学級講座を続け、地域の評判は、正に寺小屋はアカデミックそのものの姿と言える事実です。誠に得難い教授奮闘の姿です。(この欄ひるばは、本来公運審委員の方からご執筆いただいたのですが、吉川町の都合で今回のみ公民館長からのご執筆となりましたことを付記します。)

昭和五十年より二十年近くも婦人学級講座を続け、地域の評判は、正に寺小屋はアカデミックそのものの姿と言える事実です。誠に得難い教授奮闘の姿です。(この欄ひるばは、本来公運審委員の方からご執筆いただいたのですが、吉川町の都合で今回のみ公民館長からのご執筆となりましたことを付記します。)

1、現代の家庭教育の現状

新潟市では、第二次生涯学習推進実施計画のもとで、家庭教育の充実に取り組んでいます。そして乳児期から思春期までの発達段階ごとに、それぞれのテーマをもって開催しています。

その中でどの段階にも共通していることは、今日の情報化社会の中で、様々な情報が氾濫しすぎていて、逆に何を選択していいか分からない親や大人が増えているため、子どもにとって本当は何が望ましいか、見極めることができなくなっている



会 (下越地区) 実践発表より
『学級のあり方』
～幼児期～
主事 羽 深 真由美

状況があると思います。

また学歴社会の中で、いい高校、いい大学というふうな学力ばかりが重視され、人の心の成長に目を向けることが少なくなっています。もちろん学歴を否定するわけではありませんが、赤ちゃんの時から早期教育が始まり、その後、いくつかの受験競争を乗り切るための塾通いといったようなハードなスケジュールをこなすため、遊ぶ時間もないまま、子どもたちは親の期待に応えようと必死に頑張ります。そういう生活の中で、子どもたちは無意識のうちに、他者からみた「何でもよくできる効率の良い子」になり、「自分」というものを持たないまま大人になってしまいます。

さらに、小さい子どもを持つ30～40代の親自身が、そういう社会で育ってきているのです。まず、現在の子どもの状況が見えにくくなっているのではないのでしょうか。

家庭の教育力が見直されている今、子どもにとって本当は何が望ましいか見極めるには親自身が、その子をどう育てたいかという教育観や、様々な情報から選択できる自分なりの価値観を持つことが求められているのだと思います。

そこで、公民館の家庭教育学

級では、様々なテーマでの学習から、いかに自分自身を見つめ直し、また自分というものを築いていってもらおうかが、鍵になると思います。

2、幼児期家庭教育学級の取組み

乳幼児期の子どもの持つ親にとって、現在の子育ての環境は、とても子育てしにくい環境にあると思います。というのは、核家族化・少子化の中で、母親と子どもの二人だけの生活が増えています。また地域のつながりが希薄になり、子どもの数が減っているため、同じく親の関係が持ちづらくなっています。

さらに高齢化社会が進み、高齢者の人口が増えているため子どもが遊んでいたり、子どもがいるということが、何となく特別なことのようになっています。(坂井輪地区のある自治会の高齢化・少子化の例……19

2世帯中、小学生のいる世帯13世帯、65才以上の人がいる世帯82世帯)

の子どもを育てた経験のある年配の方でも、子どもの騒ぐ声をうるさく感じてしまいます。このように、子どもに対する考え方に他の世代とギャップがあるので、子育ての悩みが一層大きくなります。

また特に幼児期は、2・3歳で自我が芽生えてくるので、子どもたちは少しでも自分の思い通りにならないと反抗します。そしてこの時期は、子どもの成長は早く、その成長には個人差があるのですが、ついつい他の子どもと比較してしまい、どうしてこの子はまだ○●ができないのかしらと、イライラすることが多いのです。

人との関係が持ちづらい環境の中で、現代の母親は悩みを誰かに話すことができず、一人でモンモンと悩みを抱え込んでしまいます。このように母親一人が悩みを抱え込んでいては、子どもにとっても、母親にとってもいいはずがありません。

そこで、プログラムのなかでは、できるだけ話し合いを多く取り入れ、子育ての悩みは自分一人だけでなく、みんな同じ悩みを抱えているということを分かっってもらおうと配慮しました。悩みを共感し合うことにより仲間ができ、親同士のつながりができてきます。

また母子分離の学習会の前半は、受講者が知りたがっている「しつけ」や「遊びを通しての心の発達」など幼児教育の基本的なものを取り上げました。

そして後半は、現代の子育て中の母親が抱えている悩みは、一人一人だけの問題ではなく、社会的な問題であるということを確認してもらい、そこから「では親はどうすればいいのか」ということを考えてもらおうとプログラムを展開しました。

3、具体的なプログラムの展開

子育ての問題を社会的な問題としてとらえてもらうために、「現代の子育てから見えるもの」と題し、2回にわたって話し合い中心の学習を進めました。

1回目は、子どもと母親だけの密着した生活から起こる問題、例えば、①親の干渉のしすぎでやる気のない子どもが育つ、②小さい時から余りにも子ども中心の生活だったため、子どもが自立したときに子離れできなくなる、③偏差値教育で育てられた親にとって努力の結果がすぐ目に見えない子育ては、我慢の連続である、というような問題が取り上げられていた新聞記事をもとに、事前にその新聞記事を読んできてもらい、どの部分に興味をもったか、まへ

の子どもを育てた経験のある年配の方でも、子どもの騒ぐ声をうるさく感じてしまいます。このように、子どもに対する考え方に他の世代とギャップがあるので、子育ての悩みが一層大きくなります。

すくすく子育てセミナー開催要項
(平成9年度国庫補助事業幼児家庭教育学級)

〈ねらい〉

人間の一生のなかで、幼児期は人格形成や人間関係の広がりという観点から大変重要な時期といえる。この時期特に、子供の将来に大きな影響を与えるのは、家庭での親子関係だといわれる。そこで、子どもの人権や個性の尊重という視点から、望ましい家庭教育のあり方について学ぶと同時に、両親が互いに協力した周りの人の協力を得ながら子育てしていくことの大切さを認識する。

また、子育てについての様々な情報が氾濫する中で、何がその子にとって望ましいか判断する親自身の価値観を培うため、親も人との交流を通して自分自身を見つめ直す機会とする。

〈主催〉坂井輪地区公民館
〈学習時期・内容・講師・回数〉下記プログラムの通り

〈会場〉坂井輪地区公民館 第2講座室 他

〈時間〉午前10時～12時

〈対象〉2～3歳児とその親30組(先着順)〈親のみも可〉

〈保育〉30人(先着順)

〈参加費〉360円(1回30円×12回)(保険料など・ただし保育運営費込み)

〈申込み〉坂井輪地区公民館(☎269-2043)へ電話で申し込む。

§ 学習プログラム §

回	学習主題	学習方法	講師・指導者
1	開講式・オリエンテーション 出会いのつどい	挨拶・説明 自己紹介	公民館長 公民館職員
2	親子であそぼう! (親子遊び I)	親子遊び	実技指導者 田村千恵子
3	親子であそぼう! (親子遊び II)		実技指導者 田村千恵子
4	親子であそぼう! (親子遊び III)		実技指導者 山村千恵子
5	幼児の反抗期とつけ ～イライラしてませんか?～	講義・話し 合	松の実保育園長 福田 孝子
6	「子ども」って何? ～その子自身を認めよう～	講義・話し 合	新潟青陵女子短期大学教授 間藤 孝子
7	子どもの世界を広げよう ～遊ぶことの大切さ～	講義・話し 合	新潟青陵女子短期大学教授 尚藤 孝子
8	現代の子育てから見えるものI ～子どもと共に育むために～	話し合	元市社会教育課長 天児 淑子
9	現代の子育てから見えるものII ～子どもと共に育むために～	話し合	元市社会教育課長 天児 淑子
10	自分らしく生きる	体験発表・ 話し合	Sincere会員 斎藤 直子
11	これからの子育て ～みんなで話してみよう～	体験発表・ 話し合	松の実保育園長 福田 孝子 前年度受講者 松本久美子 ワイワイネット ワーク代表 郷 扶二子
12	親子であそぼう! (親子遊び IV)	親子遊び	実技指導者 田村千恵子

若手寄稿

平成9年度 家庭教育指導者研究協議

『行政が主催する家庭教育』

新潟市坂井輪地区公民館

「た、どうしてその部分に興味をもったかというテーマで、グループの話し合いを進めてもらいました。」
話し合いの後の受講者の感想は、みんな話しているうちに自分自身の問題点に気づいたという人、子育ての問題を社会的な問題としてとらえた人、まずまず、しつけや教育など正しい子育てとは何か分からなくなりました。2回目は、1回目の話し合いを受けて、今後、親としてどのようにしていったらいいのか、生活をどのように改善していったらいいのかという視点で、「親と

しての自分」を見つめ直しでもらおうと、2つの質問をしてみました。
1つ目の質問は、「自分の子どもが小学校1年生になつたとき、どんな子どもになつてほしいか」というものです。この質問は、いかに現代社会は、みんなの考え方が同質化され、少しでも違う意見を認めないような社会になっていくかということ、どのくらい親が子どもに対して理想の子ども像を押しつけているかという問いを、考えてもらおうと思ひ質問しました。

子ども像が出たかというところ、自分のことは自分でできる子、自己表現のできる子、人の話をよく聞ける子、他人を思いやることのできる子、協調性のある子、自分を好きになれる子、など実に様々な親の望みが出てきて、実際にはこんな小学校1年生はいないというくらい理想の子ども像でした。

しかし、そういった理想の子ども像に少しでも近づけるためには、やはり日常の些細な出来事の中や、何か問題にぶつかった時に、それを親がどのように判断していくかという親の考え方や価値観が大切になってくるということ、親である前の一人の人間としての自分を見つめ直しでもらおうと、2つ目の質問をしました。

その質問は、「1週間、夫や子どもなどに関係なく自由な時間があるとしたら、何をしますか」というものです。この質問は、普段子育てに追われて自分のしたいこともせず、また、自分のやりたいことは何であるかも考へる時間もない生活の中で、少しでも母親である前の一人の人間として、自分の時間をもつ大切さを感じてはしなかったのです。それでどのような答えが出たかというと、やはり一番多かったのは、海外旅行へ行つて友達

とおしゃべりしたり、ショッピングをしたり、上げ膳据え膳の生活をしたいというものでした。また旅行に行くにしても、どうしても家が散らかっているのが気になるので家の掃除を一日してから出掛ける、という人も何人かいました。あと、贅沢旅行ではなく鈍行列車で行けるところまで行ってみたい、なかなか会えない友人に会いたい、来年度子どもが幼稚園に行くので職探しをしたい、歯医者に行きたい、美容院に行きたい、なんていうのもありました。

こんなふうに、一人一人の夢はそれぞれ違いますし、普段いかにやりたいこともせず、我慢した生活を送っているかが分かります。このことを話している時の受講者の表情は、とっても生き生きしていました。

ただ、今、例として挙げたような夢をすぐ実行しろという訳ではありません。その夢は夢として持ち続けながら、現在の日常生活の中でちょっとしたことでも、できることをやっていくってほしいなと思います。そうやって、母親が生き生きしていることが、子どもにとってもプラスになるのだと思います。

以上のような形で、自分自身を見つめ直しでも(次頁へ)↑

✓(前頁からの続き)
らうために、2 回にわたって話
合い学習を進めました。

4、ライフステージ毎の 事業展開

坂井輪地区公民館の幼児家庭
教育学級では、3 年くらい前か
らプログラムの中に、子育てに
ついて、家庭という単位だけで
なく、自分という個の単位まで
掘り下げたテーマを取り入れて
いますが、この 1 つの家庭教育
学級の中だけではなかなか学び
は深まりません。

家庭教育学級における問題点
の一つとして、一つの講座が単
発的に終わってしまうというこ
とが挙げられると思います。

そこで、せっかくの学びを次
につなげるために、自主グルー
プ化を進めるだけでなく、ライ
フステージ毎に学び続けられる
ように公民館の主催事業を展開
しています。例えば、乳児期・
幼児期・小学生期・思春期と発
達段階毎の家庭教育学級だけ
なく、その間、乳児期のあとと女

性学セミナーを受講したり、幼
児期のあと女性学セミナーを受
講できるように事業を開催して
います。

また、もっと学びを深めるた
めに、セミナーの受講だけでな
く企画委員としてセミナーの企
画や運営に関わってもらった
り、記録集の編集作業などにも
関わってもらうなどしていま
す。そうして、公民館で学び続
けることで少しずつ力をつけ、
公民館の主催事業の中で体験談
を発表したり、公民館だけでな
く、その他の学習会や研究会な
ども活躍してもらっています。

このように、地域にある公民
館は、地域での学びの場として
様々な学びの機会を提供し、そ
の学びをつなげていくことが必
要になってくるのではないかと
思います。そして個人の学びだ
けでなく、その個と個をさらに
つなげてネットワークを組んで
いくことが求められています。

5、公民館の保育室

新潟市では、家庭教育学級や
女性学セミナーなど、子育て期
の女性を対象とした公民館主催
事業には保育室を設置していま
すが、保育室を通して、子ども
と親と保育者の三者がそれぞれ
人との関わりを学んでいると思

います。そういった育ち合いの
場である保育室を、家庭教育学
級や女性学セミナーなどの自分
自身の生き方を見つめ直す講座
に設置することによって、講座
での学びがより一層活きてくる
のではないかと思います。

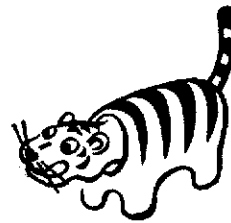
6、今後の課題

家庭教育学級に関しては、ま
だまだ課題はあります。現在、
家庭教育学級の殆んどは平日の
午前中の開催なので、働いてい
る人に対してどのようにしてい
くかや、母親だけでなく父親へ
の学習の機会をどのように作っ
ていくかが、これからの課題で
す。

また地域での子育てが難しく
なっている今、家庭という単位
だけでなく、地域という広い範
囲での子育てについても考えて
いくことが求められています。
人と人との関係が希薄になっ
たのは、自分さえよければいい、
他の人のことはどうでもいいと
いう人が増えているだけではな
く、周りの人と関わりたくても、
どう関わったらいいか、どうコ
ミュニケーションをとったらい
いか分からない人が多くなって
いるのだと思います。

そういう人のためにも、年代
や性別などにかかわらず、様々
な人との関わり場を作り、そ

の関わりの中から自分自身を大
切にし、また、自分自身で学ん
だことを他の人にも伝えたり、
自分のことだけでなく、他の人
のことも考えられるような人が
育つような公民館事業を開催し
ていくことも、これから必要に
なってくると思います。



＜ 月報 編集委員会開催さる ＞



エコー
○新しい年一九九八年も、県公
連にとりまして輝かしい年とな
りますよう、ご祈念申し上げます。
(紫雲寺町鈴木庄太郎様より)
○月報、いつも精読させていた
だいておられます。(十日町市小山
哲夫様より)
○月報のタイムリーな記事塔載
毎号得る所の多い紙面で敬服し
ております。(守泊町土田明様より)
○多くの市町村及び公民館様よ
り賀状をお寄せいただき、誠に
ありがとうございます。(県公
連事務局より)

諸事情により遅れていた月報
編集委員会は、昨年 11 月 27 日(休
新潟市中央公民館会議室で開催
された。

開会に当たり今井会長から、
当公民館月報は内外について評
価が極めて高いこと、内容の良
さをアピールしながら読者層
の拡大を図ること、広報情報周
知の大切さを再確認すること等
激励を兼ねてあいさつされた。

内容としては、後期編集計画
が事務局から示され、特集、実
践シリーズ記事等について検討
協議された。

今後は、地域バランスを考へ
た紙面構成、A4 版移行への準
備等も検討され、無事終了した。



甲骨文字「虎」
(今井会長筆)

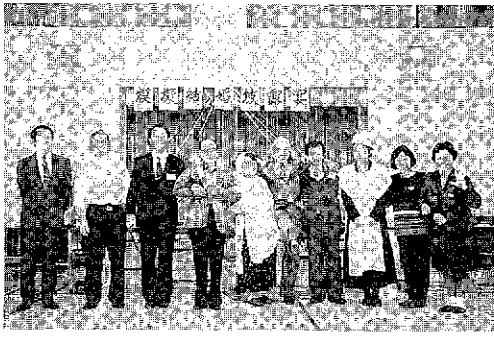
サークル交流

ふれあいを大切に!

レク、しん

「自分自身が心から楽しみ、そして他人にもその楽しみを分け与える」をモットーに二十歳から七十歳迄幅広い老若男女が、新潟市の中央公民館を拠点に毎月二回第二と第四火曜の夜に活動しているグループです。

「楽しくなければレクリエーションではない」という考えから、その活動内容は、ソング・ダンス・ゲームをベースにウォークラリー、キャンプファイヤー、ニュースポーツ、はたまた



た夜校の下で「川柳三昧」といった楽しい宴の一時もあります。

また、最近はこのストーリーを作り、そこに歌やゲームを取り入れて楽しく演出するという新たな角度からレクリエーションにチャレンジしています。

公民館活動というと、そのグループだけで楽しめばよいと、とかく閉鎖的になりがちですが、いつでも、どなたでもと声を掛け、他サークルとも交流しながら「ふれあいを大切に」して

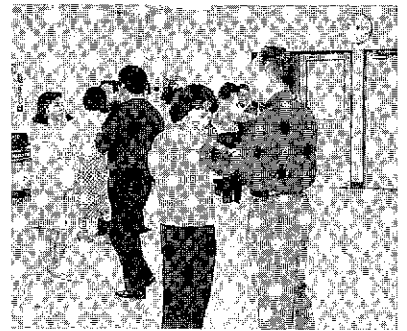
いるサークル・レクしんです。ご一緒にやってみませんか。(レク、しん) 吉田 徹 (記)

サークル活動は

奉仕の寄せあつめ

フラミンゴ

公民館の講座の後、私達がダンスの会を結成してから十二年、会員は四十余名、三十歳代から七十歳代まで幅は広いですが同じ趣味の集りで違和感はありません。練習は土曜日と水曜日(水曜日は初心者)。土曜日はプロの先生が指導をしています。水曜日は土曜日の人達が練習を兼ねて教えています。



活動は午後八時から十時まで、休憩は十五分間のお茶飲みをします。この時が一番楽しい時でもあります。パーティーは年七回、近隣から大勢の人が来てくれます。パーティー会費の一部は毎年「歳末助けあい」に協力金として町に差し上げています。世話係は十三名、出来る事を無理せず奉仕の精神で運営をしています。大勢の人達との出会いを大切に、そこには金も地位も名誉も入り込むすまは

ありません。またダンス活動は若さの源、みんなの顔は輝いています。今後の問題として、技術の習得を重視する人、健康維持のため、人との出会いを楽しむに來る人、それらの思いをどのように包んで運営するかが課題の一つでもあります。(三島町フラミンゴ 会長 山後 平八 (記))

見附市北谷公民館

主査 八木清宣 様

メガネの奥の優しい目線、そして「公民館人」として豊富な経験に裏打ちされた人柄にひかれ、彼の周りでは世代、男女の別なく、公民館事業の企画運営の一翼を担ってくれる自称「公民館応援団」の談笑が絶えない。出身地の公民館勤務というこ



ともあって、地域課題や住民要望を事業に反映させて

ゆく力量は天下一品。昨年四月に新装なった公民館として、住民から寄せられる期待に応えてくれている。こうした裏には、休日、昼夜を問わない取組みがあつてのこと。時折「大変だね」と声をかけると、「自分も楽しみながら仕事をしていますから」とプラス田舎の答えが返ってくる。丘陵と池、そしてテニスコートと恵まれた環境にある公民館で、住民に信頼され多くの感動を提供してくれている。今後とも八面六臂の活躍を期待したい。(見附市北谷公民館 館長 井口 正治 (記))

素顔拝見

紫雲寺町中央公民館

副参事 小泉由岐子 様

当公民館のお嬢様的存在。女性職員のみとめ役でもある。学校給食共同調理場を振出し、都市計画・農林水産関係のセクションを経て、長年の希望が叶い、平成八年四月から公民館勤務となる。心強いことに民間の経験もある。



彼女のいるところ笑い声、スポーツになじみ薄かった人達を、「その氣」にさせる不思議な魔力を持ち合わせた人間でもある。新たな出会いと、新鮮な感動を与えられる事業の展開と、主人公である町民の、いつまでも輝いていたいと思う心を、育んでやっつけて欲しいと願う。

この間に培った人間関係や、持ち前のバイタリティーをフルに生かし、スポーツ・レクリエーション活動の普及に、寝食を忘れて地域を駆け回っている。ニューモアのセンスも抜群で、

そして、自分自身も……。 (紫雲寺町中央公民館 館長 板垣 克彦 (記))



恵贈資料紹介

「文芸とよさか」第十三号

文芸とよさか編集委員会
豊栄市中央公民館
「文芸かみはやし」第二号
神林村教育委員会

阿賀北の二市村より
文芸誌が恵送されて参
りました。

の文が掲載され、渦再生への
並々ならぬ取組みの姿勢が感じ
られました。

「とよさか」13号は、福島渦
特集で、渦をめぐっての随筆・
論文、詩・短歌・俳句・川柳で
構成され、巻頭では市長として
の小川竹二様、随筆・論文の部
では一人として小川竹二様

また中仕切りの写真・絵がす
ばらしく、文芸誌全体に潤いを
与えており好感がもてました。
「かみはやし」2号、歴史は
比較的若い、が村岩地区先駆各文
芸誌の好影響を受け、内容はか

昭和32年協会設立発会式以
来、丁度40周年を迎え、昨年末
記念行事の一環として記念誌
を発行されたものです。

恵贈資料紹介

財新潟県ユースホステル協会

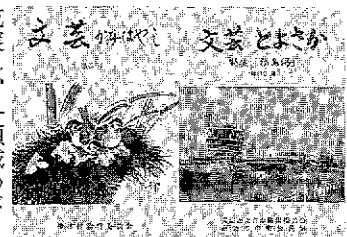
創立40周年記念誌

で構成されております。

文中に、今は故人となられ、
当時協会の設立に多大な貢献を
なされた吉川浩次先生、飯塚正
雄先生、石浜文郷先生のお名前
が登場しているのも感慨無量の
ものがあります。

青少年人口の減少、若者意識
の多様化により、どの青少年団
体にも共通する悩み、会員減少
の課題を抱えながら新しく50周
年に向け歩み出そうとしている
ようです。

協会の今後の方針、方向等、
協会役員の方針、方向等、
☆ユースホステルと思ひ出を綴
る当時及び現在のメンバーの随
想、☆最後に関係資料等の掲載



なり充実し、各領域のバランス
も良くとれています。

3年間任地として赴任してい
たので、巻頭の太平豊教育長様
はじめお世話になったお名前が
目白押し、これからゆっくり楽
しみながら読まさせていただきます。

県協会事務局からは、入会希
望者があつたらどなたでも結構
で、ぜひご連絡いただきたい、
とのこと。

◎新潟県ユースホステル協会
・〇二五―二二二―七八九
新潟市西堀通り五
新潟三越デパート8階です。



村上市岩船郡生涯学習振興大会開催

「学社融合と生涯学習」をテーマに

昨年11月26日、生
涯学習振興の中で
「学社融合」は、学
校教育と社会教育が
それぞれ役割分担を
前提とした上で、そ
こから一歩進んで、
それぞれの要素が部
分的に重なり合いな
がら、一体となった
青少年の教育に取り
組んでいくという考
え方で研究討議を深
め、公民館活動のあ
り方を探る、という
趣旨で開催された。
会場は、県公民館
大会と同じ村上市民

あ と が き

◆新年あけましておめでとうご
ざいます。昨年中は、いろいろ
とお世話になりましたが、今年
も何分よろしくお願い申し上げ

表紙解説

「雪の華」

冬季間のある日、妙高山
麓付近では湿った雪が樹木
に付着し、自然の結晶とし
て美しい芸術的な華(花)
を咲かせます。

(妙高村公民館)

ふれあいセンターで、プログラ
ムはまず、パネル討議「学社融
合と生涯学習」で開始された。
パネリストは、いずれも村上・
岩船郡市内の学校教育代表、社
会教育代表、住民代表から各2
名ずつ選出されたエキスパート
の方々で、コメディエーターの
適切な進行の下、それぞれの立
場での熱心な討議が展開された。
討議終了後、下越教育事務所
羽田野晃社会教育課長様から、
県内全体を見通した立場で、具
体的かつ実践的なまとめの指導
講評をいただき、最後は「言葉」
と題し、ひとり語り作家の安藤
俊子様の記念講演で締められ
た。

◆新年事始め、今年は今井会長
から年頭所感と揮毫をいただ
き、確かな歩みの一歩を踏み出
したいものです。(鈴木 記)

発行所 新潟県公民館連合会

〒951

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【TEL・FAX (025)224-6073】

発行人 会長 今井昭友

編集人 事務局長 鈴木友夫

【定価1部150円 年極1,800円】